

## 第5回練馬区独立70周年記念誌編さん委員会 会議要録

1. 日 時 平成28年7月12日(火) 午前10時～11時30分

2. 場 所 練馬区役所本庁舎5階庁議室

3. 出席者 ★印は、4/1付異動での新任

委員長 齊藤 睦 専門調査員

副委員長 黒田 叔孝 副区長

委員 高橋 葉子 学識経験者

委員 矢島 一 歴史写真研究家

委員 永井 信孝 専門調査員

委員 市村 保★ 区長室長

委員 佐々木 克己★ 企画部長

委員 小西 将雄★ 総務部長

委員 木村 勝巳 地域文化部長

委員 大羽 康弘★ 教育振興部長

委員 市橋 歩 区長室副参事(広報戦略担当)

委員 小金井 靖 文化・生涯学習課長

委員 杉本 圭司★ 情報公開課長

事務局 情報公開課

### 【次 第】

(1) 台割の検討

(2) デザイン案の検討

(3) 今後のスケジュール

(4) その他

#### 4. 発言内容

##### <委員長>

6月29日に開催した作業部会において、(株)JTBパブリッシングが提出した台割について確認を行った。その際、各委員から出た意見を反映させたものが本日提出した台割となっている。では、(株)JTBパブリッシング編集責任者の方、台割について説明を。

##### <JTBパブリッシング>

本日提出した資料について説明する。

資料1-1 台割 (A3横3枚) ページごとの掲載案、取材先候補を記入したもの

資料1-2 ラフ案 (A3横3枚) 見開き単位のページ制作イメージ

資料2 デザイン案 2点

資料3 スケジュール案

以上4点の資料を提出する。台割とラフ案を合わせて見るとわかりやすい。

1 ページから11ページまでは本を制作する場合の前付となる。大扉、リード、目次、早わかりといった内容。

12ページから45ページまでの第一特集「歴史(ヒストリー)」は都市計画マスタープランの7エリアに分けた。概ね人口は各エリア10万人規模となっていると聞いている。

各エリアは、歴史的トピックスの見開きと今昔写真の見開きの4ページで展開する。

今昔写真の紹介ページでは、昔の写真に関しては、調査した結果「昔のこのような写真がある」という候補である。現在として紹介する写真は、取材を行った上で撮影を行う。

場合によっては、今昔の対比の表現が難しいことがあるかもしれない。

1番目のエリア(北町・平和台・錦・氷川台・早宮・田柄)は、東武東上線・有楽町線・副都心線沿線地域で、トピックスも今昔写真候補も充分にある。

2番目のエリア(小竹町・旭丘・羽沢・栄町・桜台・練馬・豊玉北・豊玉中・豊玉南、中村北・中村南)は、西武池袋線・豊島線、有楽町線、副都心線、大江戸線沿線地域なので話題も写真も豊富である。

3番目のエリア(春日町・向山・高松・貫井・富士見台・南田中)は、西武池袋線・豊島線、大江戸線沿線地域で、トピックスも今昔写真候補も充分あるが、タイトルが台割とラフで違うように、決めきれていない。

4番目のエリア(旭町・光が丘)は、光が丘地区を中心とした地域なので、トピックスが成増飛行場、グラントハイツ、兎月園、光が丘開発に絞られる。

5番目のエリア(土支田・谷原・大泉町・大泉学園町・西大泉)は、大江戸線の延伸予定地域で、トピックス候補が少ない状況。

6番目のエリア(高野台・三原台・石神井町・東大泉・南大泉)は、西武池袋線沿線の地域で、石神井公園もあるため、話題も写真も豊富である。

7番目のエリア(下石神井・上石神井・石神井台・上石神井南町・関町東・関町北・関町南・立野町)は、西武新宿線沿線の地域で、こちらもトピックス、写真とも豊富にあった。

42 ページから 45 ページは、地域で分けられない鉄道関連の歴史をまとめたいと考えているが、情報が豊富なため 6 ページに増える場合もある。

「年代別会議」は、流れの切れ目で、7 か所に見開きで差し込んでいきたいと考えている。来年にジャストの年代になる区民から意見を募集する。

48 ページからは第二特集の「現在（練馬自慢）」となり、本誌のなかで一番ボリュームがある。最初の特集「最先端の都市農業を楽しもう！」として提案を行ったところ、都市農業課様から追加の提案や取材先候補があった。誌面展開の中で多くの人物を紹介するので、個別の著名人インタビューのページは割愛した。

78 ページからの「歩き、体感する章」においては、アニメ・美術工芸・祭り・スポーツ・商店街・みどりのまちづくりを展開する。商工観光課、文化・生涯学習課、石神井公園ふるさと文化館、スポーツ振興課、みどり推進課から取材先の提案があった。

122 ページから 129 ページは、取材におけるページの増減を調節するためのクッションページを設けている。

132 ページからの「このまちで暮らすということ」として、練馬区に住んでいる方が普段気付かない「練馬区の住みやすさ」を「練馬区の自慢」としてまとめた。

区民が受けている行政サービスは「十分自慢できること」として明示する。

まずは、子供が育つ環境作りや地域のネットワーク、妊娠から子育てまで切れ目のない行政サービスを取り上げる。今話題の「子ども食堂」の活動も練馬は早かったと聞いた。

そして、練馬の特徴でもある 3 大学の取り組みを紹介する。具体的には、地域と連携したミツバチプロジェクトやカレッジトライアングルなどを取り上げる。

また、練馬区は高齢化社会の対応も進んでおり、En カレッジや地域包括ケアシステムについても取り上げる。

最後に「安心・安全・便利 エコできれいこそ、まちの基本」として防災・消防・清掃・リサイクルの現状を取り上げ、また大江戸線延伸に関する情報も紹介したいと考えている。

178 ページから 195 ページの第三特集、「歴史（過去～現在）」は、これまでの区史よりコンパクトにまとめたいと考え、18 ページで紹介する。

198 ページから 209 ページの第四特集、「未来（ビジョン）」は、未来の練馬区の暮らしを漫画で紹介したいと考えているが、取材後に内容を固める予定。

210 ページから 216 ページは「後付」で索引・奥付などの内容である。

別冊の付録については、次回の作業部会以降に検討の予定。

<委員長>

では、質問等をお願いします。

<区長室長>

今回から委員会に参加するが、70周年記念誌の目的を教えてください。

<委員長>

事務局からお願いします。

<事務局>

これまでは歴史的な作りの区史を10年ごとに発行してきたが、今回は「歴史」だけを扱うのではなく、練馬区の魅力を打ち出す区の記念誌としていく。

<委員長>

「これまでにない周年記念誌」として、過去から現在、未来につながるイメージが浮かび上がるような、区民目線、区民参加型で作る、練馬区の魅力が詰まった一冊となる。見て読んで面白い、持ち運んで使える、練馬らしさを感じられる記念誌。現在の魅力を中心に据えて、これまで内容を検討してきた。

<区長室長>

第一特集は「歴史（ヒストリー）」だけでなく、今行っても楽しめるスポットが必要ではないか。また、農業部分では、全国でも最先端の方々取材候補者として挙がっているが、区内の農家500軒が後ろに控えている事実を配慮した上で、取材・掲載をお願いしたい。

<教育振興部長>

第二特集「現在（練馬自慢）」に「サツキ会」の情報が必要ではないか。

また「伝統工芸」の紹介も2人だけでよいのか。

「このまちで暮らすということ」に地域の福祉団体の紹介を加えてはどうか。

練馬区には大きな企業が少ないが、企業に属していなくてもスポーツで好成績を収めている人が多いので紹介してはどうか。

エコに関してだが、リサイクルについて取り上げてよいと思う。ただ、リサイクルの紹介は絵としては綺麗だとは言えないため、誌面構成上大丈夫かどうか。

<委員長>

練馬区はスポーツが盛んで、高齢者グループも色々とあり、実力のある草の根団体も多い。

<区長室長>

「サツキ」の育て方は練馬区が発祥である。また「江戸東京野菜」が注目を浴びているのでどこかで検討できないか。小麦の紹介として「国産初のビール麦、金子ゴールド」とあるが、ビールより小麦粉文化圏としての紹介はどうか。練馬は小麦粉文化圏であり、昔は「朝饅頭、昼うどん」と言われていた。

<文化・生涯学習課長>

第一特集、第5エリアのタイトル「名水・農と新たな町」とあるが、「新たな」の表現は変えてはどうか。「歴史と緑の町」では平凡なため「武蔵野の面影が輝く町」としてはどうか。また「千川用水」や「屋敷林」の情報が必要。第4エリアの光が丘には統廃合した学校が残っており、閉校に伴い歴史を保存するための「統合記念室」がある。

<高橋委員>

今回の記念誌はポップな雰囲気だが、市販の地域本も数多く出版されているので、それらとの差別化を図るべき。歴史、地形、水の関係等、納得できて深い内容だと思わせるようなことが必要。また年代別会議等、区民を巻き込んでいると思わせることも大事である。行政が出版する記念誌なので、一般誌とは違うことを示す意味でも掲載内容に対するデータの裏付けも必要だと思う。

<委員長>

いわゆる役所的ではない作りになると、一般誌と似かよってくる。70周年誌は、一般誌では取り上げることの出来ない内容を紹介するなどの差別化は必要。実は、紹介したい内容・話題が多すぎて、切っていくのが難しい。

<矢島委員>

練馬大根は昭和25年前後から作付面積が減ってきたため、埼玉県、群馬県、茨城県に練馬大根の種子を持って行き、大根を作ってもらった歴史がある。

<区長室副参事（広報戦略担当）>

第二特集「現在（練馬自慢）」のトップページで紹介する都市農業のページが重いのでは。「みどりのまちづくり」や「みどりの風吹くまちビジョン」として「練馬の未来」につながるようなスタート、流れがあるとよいのでは。練馬の未来像が意識できるように計算して欲しい。また、区民参加も個別に分けて入れ込んでもよい。

<委員長>

練馬の魅力が未来につながるよう、区民参加も含め面白くなるようにする。

<教育振興部長>

著名人の紹介が多いのではないか。普通に頑張っている人の活動、例えばお囃子をクローズアップしてはどうか。

<高橋委員>

練馬には「みどりのまちづくりセンター」もある。センターの情報が引越しの決め手にもなった。まちづくりセンターは、影響力のある活動をしていると思う。

<副区長>

農業を紹介するページが多すぎるのでは。もう少しすっきりさせて、他にページを割いてもよいのでは。

<JTBパブリッシング>

都市農業課の要望で「ねりマルシェ」「観光農園」部分が当初より4ページ増えている。

<委員長>

都市農業課と調整し内容をまとめられるか検討する。

では、続いてデザインについて説明を。

<JTBパブリッシング>

4案を提出する。A案は手にとって楽しいビジュアルの誌面。A案の「1案」と「2案」は書体の違いとなる。B案ではオーソドックスな周年記念誌のスタイルを提案した。私たちが考える第二特集は、A案の方向性で作らせていただきたい。テイストはA案の方向で考えているが、紹介内容によって見せ方は変えられるため、後半部分ではB案に近い見せ方もある。現在提出しているデザインは大きな紙に印刷しているので、余白については実際の仕上がりを見てほしい。方向性のご意見をいただいた上で取材を直ちに開始したい。

<委員長>

続いてスケジュールの説明を。

<JTBパブリッシング>

10月にはデザイン組のもとになるラフ案をまとめたい。年明けには初校を提出し、各所管にチェックを依頼する予定。

<委員長>

次回委員会は来年1月になるので、それまでの間は作業部会での検討となる。皆様のデザインに対するご意見をお伺いするので、A案、B案の選択をお願いします。

—各委員、A案・B案について挙手—

A案の賛同者が少し多いので、それでは読みやすくしたA案で。

<事務局>

来年1月に次回編さん委員会の予定であったが、販売についての議論を行いたいので、今年10月前後に委員会を追加で開催したい。

<総務部長>

決めていただかなければならない事があるため、1回追加開催をお願いしたい。

<副区長>

台割はもう一度作業部会で決めるということによいのでは。進められるところは進めて。

<事務局>

本日いただいた意見を作業部会で盛り込み、確定版として取材を始めてもよいか。

<委員長>

農業ページの削減は、小麦・ワイナリーのページを縮小するなど、全体の台割の中で大きく変更せずに縮小出来ると考えている。

<JTBパブリッシング>

農家紹介のページは、インタビューなどの人物紹介をするスペースも大事である。スペースに応じて取材方法なども変わってくる。既に台割の確定、取材開始が2か月遅れていることもあり、台割および取材先の確定を急いでお願いしたい。

<総務部長>

取材候補は決定という意味なのか。

<JTBパブリッシング>

インタビュー対象者に掲載枠や紹介方法について説明を行い、取材をしてから記事を固めていく。

<委員長>

取材時にこれだけの枠を使って掲載すると取材先に言う必要はないと考える。農業については4ページ縮小する方向で調整予定。次回は10月頃、第6回編さん委員会を開催予定。

以上